

# 日常生活との関連を図った課題解決学習を通じた深い学びの実現

江連 貴宏

帝京大学大学院教職研究科 教育実践高度化コース

キーワード：日常生活 深い学びの実現 授業づくり

## I. 研究の目的と方法

### 1 課題背景と問題意識

本研究の背景として、以下の2つの事項を挙げる。

〈新学習指導要領における理科の位置づけ〉

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編』では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。これからの時代に求められる資質・能力を育むには、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善が重要であるとする。

理科における深い学びの実現には、自然事象を日常生活に当てはめて考える学習場を設定していく。

〈授業実践における課題〉

日頃の授業実践では知識や技能の習得に重点が置かれ、学習した内容を日常生活と関連を促すような適切な問い掛けや思考過程が設定できず、学習した内容が日常生活に当てはめて考えるような深い学びになっていなかったことが考えられる。

このような理科の指導上の課題及び生徒の実態を踏まえ、日常生活との関連を図った発問や課題を設定し、課題解決を取り入れた学習活動を行い、理科における深い学びを実現していく。

### 2 研究の目的

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編』の理科の具体的な改善事項によると、主体的・対話的で深い学びの実現とは、『「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の3つの観点から学習過程を更に質的に改善していく』ことが求められている。

日常生活との関連を図った課題解決の授業実践を通じて、見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を実践する。その後、分析・検討を行い更なる授業改善と授業力向上を図ることを目的とする。

## II. 基礎研究・先行研究

### 1 基礎研究

本研究の要点となる「理科における深い学び」、「理科における深い学びの実現に向けて」を整理した。

本研究では「自然事象を日常生活に当てはめて考える場面」を授業展開の中に設定し、深い学びの授業を実現することについて、構想することとした。

また本研究の要となる「理科における見方・考え方」、「思考力・判断力・表現力等」について中学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編を基に定義づけを行なった。

### 2 先行研究

子どもの深い学びの姿を見取るための視点として、「深い学びの見取る視点」、「思考力、判断力、表現力」、「振り返りシートによる学びの自己評価」の3つの観点から分析をした。

## III. 研究の問い

本研究では、日常生活との関連を図った課題解決の授業実践を通じて、深い学びを実現するために、「自然事象を日常生活に当てはめて考える場面」を授業展開の中に設定し、授業を行う。

## IV. 授業実践と分析・改善

### 1 授業実践の概要と計画

本実践は、中学校理科「光の性質」（全11時

間構成)の単元で、東京都N区にあるD中学校の中学1年生1学級(20名)の生徒を対象に行った。

自然事象を日常の生活に当てはめて考えさせるための9つの授業展開を設定した。

## 2 授業実践の実際

### 〈分析方法〉

分析は授業後のワークシートや映像、実習担当等の指導・講評を踏まえて行った。特に姿見鏡を用いて、日常の生活に当てはめて考えるための指導の工夫を講じた授業実践について詳細に分析を行った。

### 〈分析・考察〉

ワークシートに書かれた生徒の記述を「A評価:姿見鏡で用いた考え方を日常の生活に当てはめて考えることができています」、「B評価:光の性質に触れ、感想を記述している」、「C評価:感想のみ記述している」の3段階に分類して分析を行った。

その結果、例えば「A」に該当する生徒の記述では、本時の学習内容を日常生活に当てはめて考えることができていたと考える。日常の生活でもっていた「ドデカイ鏡はなく、身の回りには大きすぎない鏡が多い。」という認識と、調べて分かったことを結びつけて考えていた。

本時の学習を通して、日常の生活でもっていた認識と本授業で学んだことを結びつけて、改めて捉え直し、日常の生活に当てはめて考えることができていた。

## V. 研究の成果と課題

### 1 本実践の成果

本研究の成果として次の3点が挙げられる。

自然事象を日常の生活に当てはめて考えるための学習活動では、「光の学習での実験が楽しかった。とくに、硬貨の実験と光ファイバーです。」など、ワークシートの記述や学習後の生徒のアンケートから、生徒が日常の生活の中で使っているものを用いて実験を行うことで、光の学習に対する興味・関心を引き出すことができたと考える。

また深い学びの実現については、「いつも何も考えずに見ている光にこんなことがあったんだ!という発見がありました。」など、生徒のアンケートの記述からも、日常の生活の中で無意識に活用していた光の性質の規則性についてほとんど考えることがなかった生徒が、本実践を通じて、日常の生活の経験と学習内容を結びつけて考えるきっかけが得られ、学びが深まっていたと考える。

さらに、授業の導入場面での予想が生徒の課題意識になり、その後の学習に意欲的に取り組んでいることがわかった。また授業の振り返りの場面でも、生徒は導入時の自身の予想と学習後の理解を照らし合わせ、学習の振り返りにも活用していることがわかった。

このことから、授業冒頭の導入場面で、課題に対して生徒が実験結果を予想する活動は極めて重要であり、深い学びの実現につながるものと考えられる。

### 2 本実践の課題

本研究の課題として次の2点が挙げられる。

日常の生活と結びつけて考える授業展開を取り入れた前後で、基礎的、基本的な学習内容との関係性が希薄となってしまう場面が見られ、授業全体の流れが途切れてしまったことが課題として残った。日常の生活との結びつきを生徒に考えさせることを強く意識してしまい、日常の生活と結びつけて考える活動を授業の中心に据えてしまったことが原因ではないかと考える。授業を構想するときには、生徒の思考の過程を意識し、日常の生活と結びつけた学習の内容や配列を工夫して授業を計画していきたい。

本実践では、生徒の課題意識から課題を設定することが十分にできなかった。さらなる「深い学び」を実現させるためには、生徒たちの課題意識を把握し、それらから派生する課題を設定する場面を授業計画の中に設定していきたい。

今後、授業者自身が考える授業のねらい、指導方法に明確な意図をもち、精選して授業実践を行っていく。